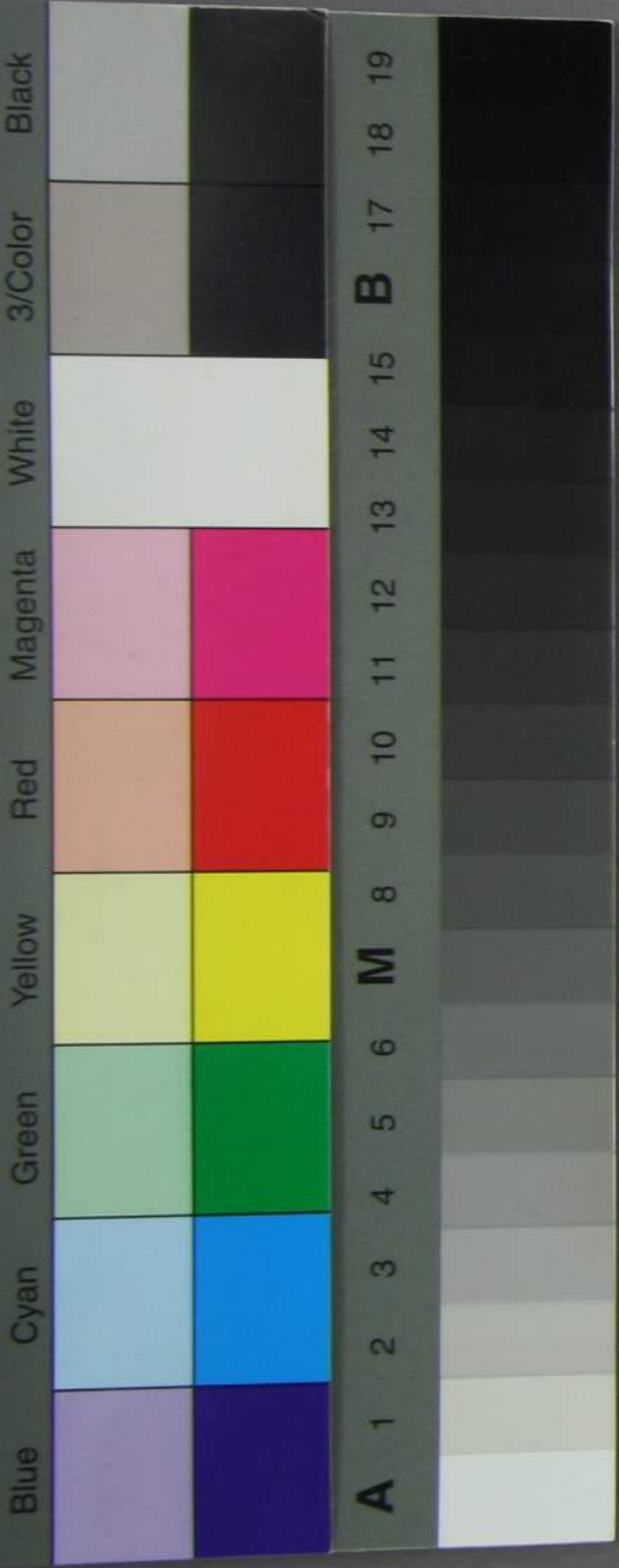


114
A5951

朕継統ノ始ヌヨリ 先帝ノ遺旨ヲ體
ニ誓テ保國安民ノ責ヲ盡サントス頼
ニ衆庶同心協力漸ニ全國一致ノ治體
ニ至ル於是國政ヲ整ヘ民力ヲ養ヒ勉
テ成功ヲ亦遠ニ期スヘシ今汝具祝カ奏
仕朕之ヲ嘉納ス汝宜シク朕カ意ヲ奉
承セヨ

大隈啟

A6921



十月二十四日

大隈啟

臣具祝謹テ

天皇陛下ニ白ス抑各國締交ノ始メ首布
政衰弛ノ時ニ際シ條約對等ノ例ヲ得ス國
權ヲ奪ヒ國威ヲ失スルヲ以テ人心棄廢ニ國
政整ハス或ハ金甌一缺アラントシテ恐ル是レ以海
内一致同心協力國權ヲ復シ國基ヲ固クシ
保安ノ道ヲ盡サントス此レ

先帝ノ遺レ旨ニシテ

陛下モ亦神明ニ誓言

七期に玉ヲ所ノ 聖旨ナリ故ニ大改維新ノ
初ヨリ忠藩義國士及州縣ノ輩ニ至ル
テ國事ニ死スルモノ其數幾千ナルヲ知ラス
竟ニ今日ノ鴻業ヲ致スヲ得テ夫レ身命ヲ
抛テ國事ニ殉ルモノ皆 聖旨ヲ奉侍スル
誠意ニ出テサルナレ而テ干戈既ニ戢リ名分既ニ
正シ條理既明ニ各藩封土人民ヲ奉還シ全
國始テ一致治體ニ歸シヨリテ廢藩置

縣ニ至リ大綱是レ立大権日ニ奉リ郡縣ノ
治全ク成ル於是乎 國權ヲ復シ萬國並立
ノ基盤ヲ立ントスルノ 聖旨ニ 注意セ
サルハカラス乃チ幸ホク 陛下ノ目的期
望スル旨趣ヲ以テ特命ヲ奉シ歐米各國
ニ使シ各國帝王及ヒ政府ノ考案ヲ諮詢
シ臣カ目撃テ親察スル所ヲ 冬的ニ條約改
正ホシ議ニ及ハントス抑テ奉ルヤ國權ヲ復ス

ルト波セサルト 聖旨ノ達スルト達セサルトニ関
係し至重至難ナル固ヨリ言テ候メス然ルニ臣
其實地ニ就キ其形勢ヲ察スルニ其改正ヲ議
スルノ難キ更ニ意料外ニ出テ功ヲ一朝クニ
奏スヘキニ非ス實効實力ヲ着スニ至ラズニ
公竟ニ國權ヲ復スル亦難シ國權ヲ波セスニハ
聖旨ニ報ス能ハス此ニ實ニ臣カ焦心若慮
眠食ヲ安セサル所ナリ夫レ實効實力ヲ着

ス勲ヲ政理ヲ整ヘ民力カシレテ厚多キニ至ラシム
ルニ在ルニシテ而シテ其ノ之ヲ為ス亦容易ナリ
ニ非ス故ニ臣帰於復命ノ始伏メ望
陛下能ク 聖慮ヲ此留メ成地ヲ永在ニ
期シ 驅進速成ヲ求ムルナリ大ニ之カ目的ヲ
定メ不動不撓政治是レ理シ民力日之レ
厚カラシメ以テ其實效ヲ立テ以テ其實
力ヲ用ヒ以テ國權ヲ波センコトヲ然ルニ今臣

奉使ノ復命未ク其委曲ヲ書スニ暇
アラスレテ内閣遣朝鮮使ノ議アルニ會ス
臣竊ニ之ヲ考フルニ維新以來總ニ四五年
ノミ國基堅トスニ非サルナリ政理整トスル
ニ非ルナリ治具備ルニ似リト雖トモ茲ニ虞
難測今時ニ方テ未ク輕ク外事ヲ圖ルハカ
ラサルナリ難然朝鮮國我ト隣好ヲ修スル茲
ニ數百年徳ニ非礼ヲ我ニ加フレバ我安ク受

テ而止ムベケン且遣使ノ後已ニ略ホ定ル臣
亦之ヲ考トス然レモ之ヲ復遣スルニ至テ
ハ之カ緩急順序ヲ審ニセズンバアルベカラス
何ントナルハ彼レ時款固結若シ礼ヲ我ノ
朝使ニ加ヘザレハ我乃之ニ應スルノ處置ナク可
ラス我之ニ應スルノ處置ナクハ是我カ國格
ヲ損スルナリ而シテ彼已ニ其端緒ヲ顯ス
故ニ使ヲ復スル自乃戰ヲ決スルノ日ナリ

是即軍國ノ大事宜ク熟ク慮リ深ク謀
ラスンハアルヘカラス且今万国往來ノ勢ヲ察ス
ルニ東ニ形シテ而其情西ニアルモノナリ或ハ
其端ヲ示サズシテ而遠圖ヲナスモノアリ故ニ
表面ヲ以テ其真情ヲ測ルニ不足今ヤ樺
太ノ事頻ニ起ル日乃目前ノ急亦甚注意
セズンハアル可ラズ凡是ホノ事先其情ヲ
審ミシテ而シテ朝鮮連与ノ意ヲ絶メシメ

萬全ヲ保ツテナシテ而之カ目的ヲ定メ之
カ方略ヲ算シテ以テ其他艦艦ノ役兵食
具錢貨ノ備及内政百般ノ調理ホニ至
ルニ強メ其順序目的ヲ定メ而シテ後朝
使ヲ發遣ス未タ晚トセザルナリ若シ之カ
備ヲ弁ス今政ニ一使節ヲ遣フシ若シ
万ノ事アリテ後事不继而又更ニ他患
害ニカルハ雖悔不可追ナリ故ニ之カ備

ヲナサス今頓ニ使節ヲ遣スルハ臣其不可
ヲ信ス而萬不得已ノ義成ルモ戰ニ從事ス
ルガ如ク至テハ其土ヲ堅シ備ヲナスニ非ルハ臣實
ニ其不可ヲ知ル其議ノ顛末ハ之ヲ口陳上奏
ス伏冀スル陛下下事ヲ存末勢ノ後急ヲ深
察シ 聖斷アラシムヲ臣具視不勝激
切屏營之至昧死上言誠惶頓首